



小栗キャップの News Letter

税理士法人オグリ 代表社員・税理士 小栗 悟

岐阜本部 〒500-8847 岐阜県岐阜市金宝町1-3 岐阜第一生命ビル 4F
TEL : 058-264-8858 FAX : 058-264-8708

名古屋本部 〒460-0002 名古屋市中区丸の内一丁目16-15 名古屋フコク生命ビル 6F
TEL : 052-222-1600 FAX : 052-222-1611

Email: info@otc-oguri.com <http://www.otc-oguri.com>

2015年8月17日(月)

技術開発の取り組み方

技術開発とは、産業や生活を改善するための新しい技術を獲得する組織的活動のことを言い、製品開発、および生産技術開発（製法開発）のための新技術開発と、それが社会に受け入れられるための実用化を行なって行く過程を含むもので、近年日本企業の開発投資の効率性（開発投資に対する利益水準）の視点から注目されています。

技術開発テーマの決定法

技術開発テーマ決定の原点は、市場・顧客の生活場面で生じている現在、将来のお困り、利便性向上などのニーズと自社の経営理念（社会貢献）追求の視点から新規製品・サービスの開発によって顧客の生活やビジネスを改善、向上したいとするトップの意思決定にあります。

したがって、その意思決定までの調査、検討プロセスにおいて次の取り組みを行わなければなりません。

1	“三現主義”による市場・顧客ニーズの調査と新規性の高い製品・サービスの発想
2	技術上の SWOT 分析等による保有技術、不足技術（新規技術開発ニーズ）の評価

3	技術上の 3C 分析等による顧客ニーズの変化、競合の対処策調査と自社の強みとする新技術開発・生産技術開発テーマの検討
4	新技術開発による「QCD（品質・コスト・リードタイム）」と利益確保の評価
5	開発投資効率の評価：「開発価値＝獲得利益／開発投資」の評価
6	トップによる技術開発テーマの決定

経営者・管理者の留意点

日本の企業は欧米企業に比べて開発投資効率が劣るので、技術開発に当っては、市場・顧客に従来にない新規性・利便性が高い製品・サービスを提供するとともに、開発効率の改善・向上を図る必要があります。

したがって、技術開発を直接担当する研究・開発部門だけに任せるのではなく、市場・顧客に密着している販売部門、品質をつくり込む生産部門などによるプロジェクトチームの編成、共同目標の設定、目標達成プロセスの重点管理、関係部門の管理者・社員の参加と職位、年齢、性別などにとらわれない自由闊達なコミュニケーションにより、衆知を活用することが必要です。



衆知を集めて
技術開発！